

4 “植物のお医者さん”に、 緑の病気を診てもらおう。

樹医の滝口肇さんはもともと植物学や微生物学を専門にする科学者だった。それが園芸店で働くようになってから、植物を育てることについてのちよつとした知識が、意外と消費者レベルにまで落ちてこないことに気が付いた。「ネットなどを見ても『お水をたっぷり』とか、感覚的な表現が多いんですよ。であるなら、科学的根拠に基づいたケアを伝達することこそが自分の使命ではないか。かくして『植物のお医者さん』として独立を果たしたのだという。具合が悪い時に、症状によって手当が変わるのは人間も植物も変わらない。「たとえば食事ができないくらいに弱った人が点滴を打つように、衰弱し切った植物には肥料ではなく活力剤を与

えなければなりません。でなければ逆効果。虫の退治についても、どの虫にどの薬でどんなやり方がいいか、というのを考える必要があります」

この日滝口さんが見せてくれたのは、二種類の薬剤によるコナジラミの駆除（写真下）。瀕死の植物を枯らす前に、プロの診療を一度受けてみよう。

樹医
滝口肇さん



たきぐち・はじめ ● 合同会社「Green Design」社長。神奈川・東京エリアを中心に植物の訪問診療を行う。https://greendesign-official.com/

問診



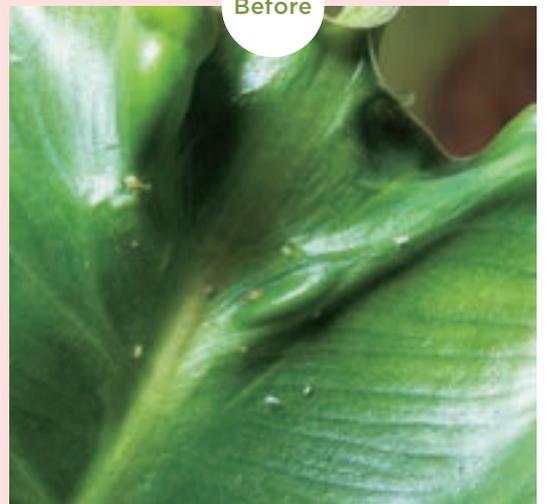
滝口さんのところに届いた弱ったアロカシア。「症状の程度は並くらいですね」

治療



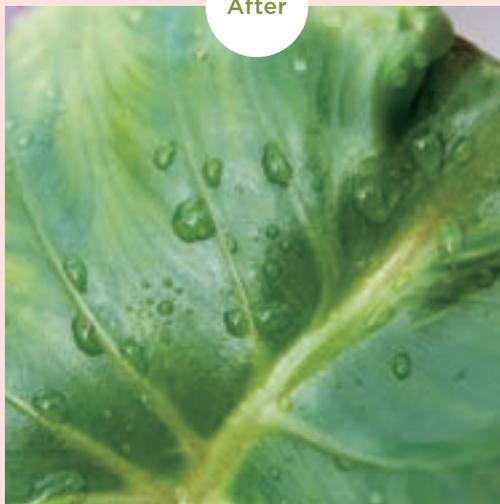
コナジラミがついてしまったアロカシアは、枯れ葉を処分してからベニカファインスプレー（殺虫剤）を散布。次に土の部分にもオルトランという粒状の殺虫剤を撒き水をかけ、樹液にも薬効成分を巡らせ、虫を予防する。

Before



葉の表面についたコナジラミ。放っておくと植物が一気に枯れ葉だらけになる。虫は雨をよけるために、葉の裏にも潜むので注意。

After



治療を終えた葉の様子。生き生きと蘇ってくる感じが写真からも伝わる。「2〜3週間もすれば、かなり元気が回復するはずですよ」

専用のガラスポットにヒノキゴケやタマゴケ、ツルチョウウチンゴケなど、約10種類の苔を植えたテラリウム。



ミニチュアのフィギュアを飾るのも楽しみ方の一つ。写真は、鎌倉の二の鳥居の狛犬を模したものだ。



店内のラックにはさまざまなタイプの苔がところ狭しと並ぶ。苔の販売は、一番小さいもので385円（税込）から展開。

5 鎌倉の苔社長に教わる、 テラリウムの魅力。

苔が静かな人気を呼んでいる。訪れたのは、鎌倉の苔専門ショップ『苔むすび』。代表の園田純寛さんにその魅力を教えてもらった。

「まず言えるのはマクロとミクロで見え方が変わるといふことでしょうか。マクロであればその場の雰囲気を作る。日本庭園などがいい例です。ミクロだ

とその精巧な作りに思わず見入ってしまう。まるで植物のミニチュアのようなまう。まるで植物のミニチュアのようなまう。

1メートル離れて気づかなかつたものが10センチまで近づくと見えてくる。さらにルーペで寄れば、そこには苔の宇宙が広がっている。そんな感動を得るために、ビギナーにはテラリウムがおすすめ、と園田さん。テラリウムとは